



2019年10月29日

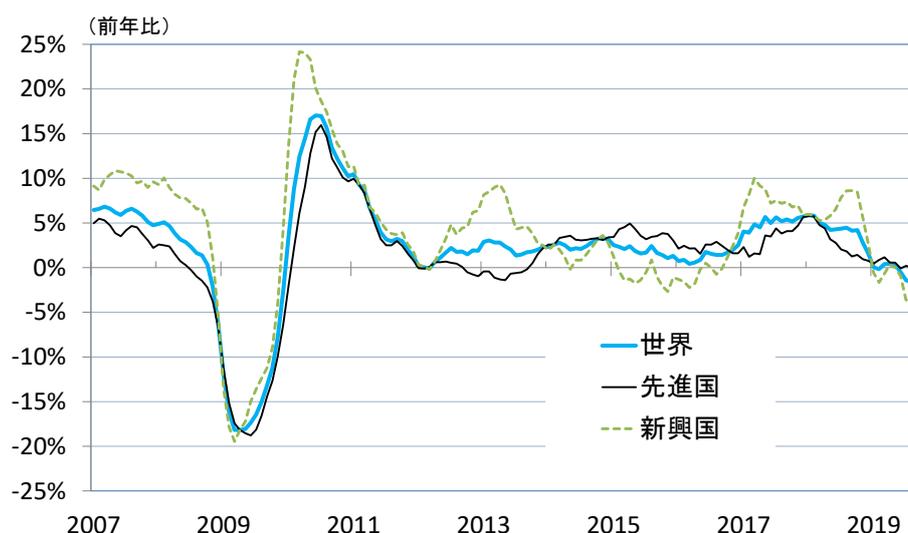
縮小する世界貿易

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

オランダ政府が発表している CPB World trade monitor は、タイムリーに世界貿易の状況を示してくれる貴重な統計である。全世界の貿易の 99% に相当する世界 81 カ国の貿易統計を集計し、実質化して毎月発表している¹。発表までのタイムラグは 2 カ月と短く、経済統計としてはリアルタイムと言っていい速さである。

それによると 2019 年 8 月の世界実質輸入は前年比 -1.6% であった² (図 1)。3 カ月連続の減少であり、2009 年以来では初めてである。次に所得水準別にみると、先進国の輸入は前年比 0.0% であるのに対し、新興国の輸入は同 -3.9% となっている。2015 年から 2016 年にかけて、新興国の輸入がマイナスに陥ったことがあったが、当時は先進国の輸入が比較的堅調に増加していた。今年は先進国の輸入も振るわず、世界全体で輸入が減少している。

図 1 実質世界輸入の推移



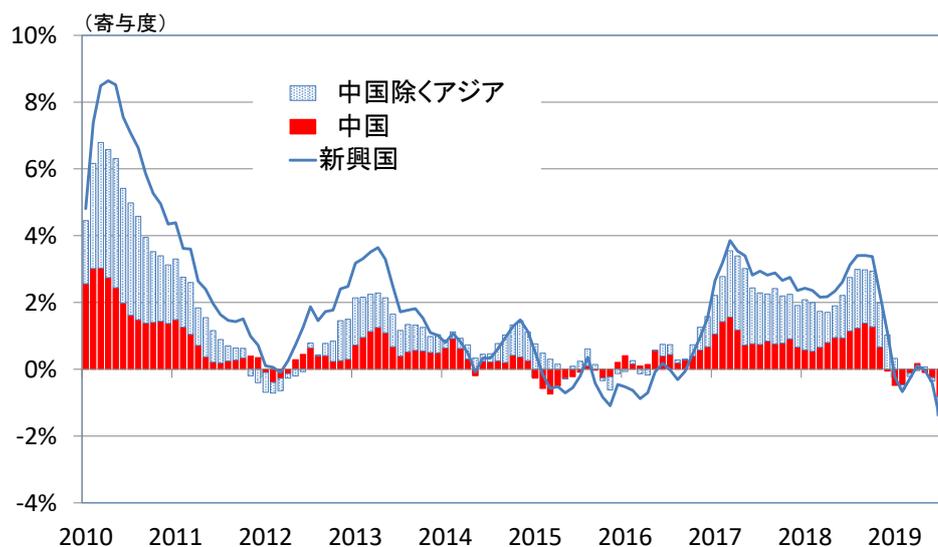
(注)直近3か月を前年同期と比較。
(資料)CPB統計より国際通貨研究所作成。

¹ CPB, 「The CPB World Trade Monitor: Technical description」 2016 年 9 月

² 短期的なブレを取り除くため、直近 3 カ月の平均を前年同期と比較している。以下同じ。

新興国の状況を地域別にみると、これまで世界貿易の拡大に大きく貢献していたアジアの低迷が目立つ。図2は世界輸入への寄与度を示している。8月の新興国全体の寄与度は-1.6%ポイントであるが、このうち中国が同-0.5%ポイント、中国を除く新興アジアが同-0.8%ポイント、合計-1.3%ポイントとなった。アジアのマイナス寄与が1.0%ポイントを超えるのは2009年10月以来であり、ほぼ10年ぶりのことである。

図2 新興国の世界輸入に対する寄与度



(資料)CPB統計より国際通貨研究所作成。

米中貿易摩擦が世界貿易に影を落としていることは、想像に難くない。そしてその影響は周辺アジア諸国にも及んでいることが示唆されているようである。世界の成長センターであるアジアの減速はリーマンショック以降で最大になりつつあり、今後の動向に注意が必要である。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。